

あきる野歌碑めぐりの路

あきる野市の中でも、秋川渓谷周辺は自然と歴史の調和がしみじみと感じられる地域です。あきる野に縁の深い「5人の歌碑」と、近代日本の足跡のひとつ「五日市憲法草案の碑」をたどり、歌人たちが想いを馳せたあきる野の空気に触れてみませんか。

三ヶ島葎子歌碑

所在地 徳雲院 (乙津511)

筏組む 木の音 牙えて 水ませる
あさけのたにに 鶯の鳴く
三ヶ島葎子



徳雲院の境内にある歌碑は小宮地区の方々、地域の文化向上などを目的に、三ヶ島葎子を後世に伝えたいという思いから、平成21年(2009年)3月に建立されたもの。

水原秋櫻子句碑

所在地 あきる野ふるさと工房 (乙津671)

屋根に来て かやく鶯や 紙つくり
秋櫻子



この句は昭和29年(1954年)の早春、当時、疎開先の八王子に住んでいた秋櫻子が当地を訪れ、紙漉きを見学したときのことを詠んだもので、「雪解けの村—秋川の奥にて」という題がついている。あきる野ふるさと工房の敷地内にある句碑は平成3年(1991年)に建立されたもの。

三遊亭歌笑記念碑

所在地 黒茶屋遊歩道内 (小中野167)

豚の夫婦
豚の夫婦がのんびりと 畑で昼寝をしたとき
夫の豚が目さまし 女房の豚に言ったとき
今見た夢はこわい夢 俺とお前が殺されて
こんがりカツにあげられて みんなに食われた夢を見た
女房の豚が驚いて あたりの様子を見るならば
今まで寝ていたその場所は キャベツ畑であったとき



三遊亭歌笑が作ったこの詩は彼の代表作と言っており、ほのぼのとした温かさやユーモアを持った詩は、当時、子どもたちまで覚えて言うことができるくらい多くの人々の間に広まった。生家があった敷地内に建てられている記念碑は、歌笑をモデルにした昭和38年(1963年)の映画「おかしな奴」で歌笑役を演じた渥美清の筆によるもの。

中西悟堂歌碑

所在地 戸倉しろやまテラス (戸倉325)

青山の 幾起伏しの ゆるくして
筒鳥きこゆ その一つより
悟堂



この歌は、昭和23年(1948年)に発表された歌集「安達太良(あだたら)」の中の一句で、三頭山に向かう途中で詠んだ一首。野鳥の生態を研究する目的でよく山歩きしていた悟堂は多摩の山々をとっても愛していた。戸倉しろやまテラスのグラウンド脇にある歌碑は、当時、愛鳥教育モデル校であった戸倉小学校へ地元からの寄贈を受けて、昭和63年(1988年)に建立されたもの。

金田一春彦歌碑

所在地 佳月橋の脇 (小和田地区)

いつか いちどは 来たいと思うた
見ても見あきぬ あき川に
金田一春彦



この歌は春彦が秋川渓谷の小和田辺りに数回にわたり訪れていた頃の昭和40年(1965年)、秋川の美しさにちなんで詠んだ。

佳月橋の脇にある歌碑は、国語学者の春彦にちなんで本の形をしたデザインとなっており、平成29年(2017年)3月にあきる野市が建立した。

五日市憲法草案の碑

所在地 五日市中学校 (五日市400)

「五日市憲法草案※」を後世の人々に広く知ってもらうため、起草者である千葉卓三郎生誕の地の宮城県栗原市、活躍の地であるあきる野市、墓所のある仙台市の3か所に同時に設置された。碑は五日市中学校敷地の一角にあり、代表的な条文が記されている。



※五日市憲法草案 明治自由民権運動期の私擬憲法草案。当時の憲法草案としては条文が非常に多く、国民の権利を守る規定が多く書かれ、現在の憲法にも相通する点があるのが特徴。

